

## 日本人だけ!? 世界では「家族・友人より、仕事・優先」が常識じゃない

「働く」ことに対して高校生はどんなイメージをもっているだろうか？  
なかには、自分の親が毎晩遅くに帰ってくるのを見て、「仕事って大変なんだな」と感じている高校生もいるのでは？ 確かに社会に出て働くのは大変なこと。しかし、それにしても「日本人は働きすぎ」とよく言われるのも事実は。

ほかの国と比べてみよう。左下に示したのは世界各国の有給休暇（※）支給日数&消化日数。スペインやブラジルは平均すると有給休暇が年間30日支給されて、100%消化している。これに対して、日本は13日支給されて、消化日数はわずかに5日。日本より有給休暇の支給日数が少ない国はあるが、消化率の低さは日本がダントツ。日本人は、休めないのには休まないのだ。

「日本では働きすぎによる、過労死が問題になっていますが、これに該当する言葉は海外にはありません。そのまま「Karoshi」と訳されています。また、日本では「家族・友人より仕事優先」という考え方が珍しくありませんが、これも海外の多くの労働者にとって理解しがたい面があるようです」(法政大学キャリアデ

ザイン学部/児美川孝一郎教授(以下同))

欧米にも仕事人間はいらるが、あくまでエリート層などに限られる。日本の場合は、働く人の多くに「仕事優先」の考え方が根強く浸透しているところが世界の中でも特殊なものだ。児美川教授は指摘する。

この特殊な仕事観が生まれる背景の一つが、海外と日本との「雇われ方」の違い。「海外では、ジョブ型といわれる職務の範囲が決められた雇用が一般的。これに対して日本は会社という組織の一員になる「メンバーシップ型」の雇用が中心になっています」

例えば、ジョブ型は自分の仕事が終われば帰るのが当たり前。一方、メンバーシップ型は、仕事の範囲が曖昧で、自分の仕事が終わっても同僚の

仕事を手伝ったために残業することが珍しくない。メンバーシップ型は個人の都合よりも組織優先になりやすいのだ。だからみんなが休んでいないのにな。と氣を使っている有給休暇も取りにくくなる。

もちろん「仲間と助け合って働くほうがいい」と考える高校生もいれば、「自分は仕事よりも家族を大切にしたい」と考える高校生もいるだろう。一概にどちらがいいといえる話ではないが、選択肢は複数あったほうがいいはず。「日本でもジョブ型の限定正社員制度を導入する会社が増えるなど、少しずつ環境は変わりつつありますね」

今の高校生が社会に出る頃には、会社や職種に加えて、雇われ方も選べる時代になっているだろうか？

有給休暇国際比較調査2012  
出所/エクスペディア ジャパン

国名	使用された有給数	支給された有給数
スペイン	30	30
ブラジル	30	30
ドイツ	28	30
イギリス	25	25
イタリア	20	28
アイルランド	20	21
インド	15	20
シンガポール	14	14
マレーシア	13	14
アメリカ	10	12
台湾	10	10
韓国	7	10
日本	5	13

※有給休暇：土日祝日以外に労働者が好きなときに取得できる休暇。休んでも給料は減らされない

## 女子高生が「週間」スマホを持たずに生活してみた 実録



妹と食べた。普段はあまり料理しないがやるのがなかったのだ。

6月19日(水)翌日が化学の実験レポート提出締め切り。実験結果を記録担当が班のみんなのスマホに送ってくれているはずだが、見られないため焦る(翌朝、学校で対応)。

6月20日(木)放課後、友達と会う約束をしていて、雨で部活(ソフトテニス部)が中止になって予定が変わったのに連絡できず。スマホがないとやっぱり不便と感じた。

6月21日(金)今週は数学が難しい単元に入り、宿題も1時間ぐらしかけてじっくり取り組んだ。

6月22日(土)通学時1人だったのでもっとスマホを使うところ、数学の小テストや英単語テストのための勉強はかかった。

6月23日(日)部活からの帰り道、親や友達と連絡をとるために久しぶりに公衆電話を使った。意外とそれだけで約束ができて驚いた。

た体制が多く、さまざまな不便が生じることが考えられる。  
しかし「意外とスマホがなくてもやっていたのかもしれない」とヒロナ。「多少不安はありましたが、次の日学校で話せばいいかなあと。それよりも、普段LINEの返信しなれちゃって追われているのが大変だったので、使えないのは逆に気楽でしたね」  
また、スマホに費やしていた時間を有効活用できたことに、ヒロナは大きなメリットを感じている。「いつもは『30分勉強して30分スマホ』と集中できない状態でしたが、断スマホ中は1ツに1〜2時間勉強を続けることができました。ちょうど数学が難しい単元に入り、音を上げる友達が多かったのですが、私はしっかりと復習。数学は苦手意識が強かったのですが、勉強すればできるんだと感じられたのが大きな収穫です」  
今後のスマホ利用については、自らある決意をした。「不便もあつたので、スマホをなくすことはできませんが、これだけ無駄に使い過ぎていたかを実感。お母さんと話し、今後はだからと使い続けることがないように、スマホはリビングだけで使うことにしました」  
こうして気持ち新たに、7日ぶりに「スマホを手にしたヒロナ。なんと口ツク解除の暗証番号を忘れてしまい、データを初期化するハメに…。皆さんも断スマホの際は注意しよう！」

スマホを1日4時間使っていた高校1年生のヒロナが、7日間の断スマホに挑戦。その期間中につけてもらった日記を追ってみよう。

6月17日(月)朝、電車が止まって、待ち合わせしていた友達と連絡がとれず困った。帰宅後は音楽を聴いたり、テレビを見たり、宿題をして過ごした。30分早く寝た。

6月18日(火)母親の帰宅が遅いと連絡が入り、夕飯(パスタ)を作っ